

ペットを最期まで愛し続けること。

それは、殺処分を無くすための第一歩です

なぜ、私たちはペットを飼うのでしょうか？

ペットと暮らして得られる幸せとは、

いったい何なのでしょう？

ペットは私たち人間よりも、弱い生き物です。

しかし、その弱い生き物から、

私たちは多くの幸せをもらっています。

だからこそ、私たちはペットとの暮らしを

求めているのではないのでしょうか？

私たちは最期まで愛し続けることを約束します！

年を重ねるにつれ、体のトラブルが増えてはくるけれど、健康管理をきちんとし、できる限り長生きさせてあげたいです

倍賞千恵子さん



生後3ヶ月で家族の一員となった柴犬の三郎くんは、2009年1月で14歳に。

「小さい頃から周りに動物がいなかったことはなくて、犬もこの三郎で8頭目くらいかしら。主人（作曲家・小六禮次郎氏）は猫派で犬は飼ったことがなかったものですから、『私がすべての面倒をみます』という証文を書いて、それでOKを買ったのですけれど、主人はすぐに三郎の虜になって、一緒に世話をし始めましたね（笑）。このコがある手術を受けた時には、主人は心配のあまり、動物病院近くの懇意にしているお寿司屋さんで、友人たちに慰められて泣きながら待つていたくらい。私たち夫婦にとって三郎は子ども同然の存在。夜は川の字になって寝ていますし、行きつけのフランス料理店に三郎も連れて行くこともあるんですよ。三郎には健康で長生きしてほしいんです。そのためには、前にも増して健康管理をしてあげなくてはいけないと感じている昨今です！」